

(素案)

宮代町観光ビジョン策定検討会議 最終報告書

宮代町の観光推進について

令和3年 月 日
宮代町観光ビジョン策定検討会議

はじめに

「宮代町観光ビジョン策定検討会議」は、町内の観光事業に携わる事業者や公募市民、観光に関する識見者により、宮代町の観光の方向性について検討する組織です。

本紙は、宮代町において今後策定を検討している「観光ビジョン」について、令和元年度・2年度に合計8回にわたり議論された内容について要旨をまとめたものです。

今後、「観光ビジョン」を策定する際にご活用いただければ幸いです。

【検討会議】

令和元年度

第1回	令和元年 7月24日 (水) 進修館 集会室
第2回	令和元年 8月28日 (水) 役場 202会議室
第3回	令和元年10月23日 (水) 進修館 研修室
第4回	令和元年12月18日 (水) 役場 202会議室
第5回	令和2年 2月19日 (水) 役場 202会議室

令和2年度

第1回	令和2年11月11日 (水) 進修館 小ホール
第2回	令和2年12月16日 (水) 進修館 研修室
第3回	令和3年 2月 4日 (木) 新しい村 村の集会所

【検討会議委員】

番号	所 属	氏名 (敬称略)	
		令和元年度	令和2年度
1	共栄大学	橋本 佳恵	
2	宮代町商工会	嶋田 知恵子	嶋田 知恵子
3	東武レジャー企画株式会社	中嶋 庸子	中嶋 庸子
4	株式会社新しい村	千葉 美香	千葉 美香
5	みやしろ市民ガイドクラブ	千葉 庄一	千葉 庄一
6	和e輪e実行委員会	浅倉 孝郎	須藤 晃応
7	宮代マルシェ実行委員会	佐々木 敦子	佐々木 敦子
8	埼玉県物産観光協会	岩岸 悟	岩岸 悟
9	公募	小矢島 恒雄	小矢島 恒雄
10	公募	山本 豊	山本 豊
11	公募	小川 まなみ	小川 まなみ

目 次

- 1 観光推進の背景
- 2 宮代町における観光の取り組みおよび現状と課題
 - (1) 宮代町総合計画との関係
 - (2) 宮代町の観光資源
 - (3) 宮代町の観光の現状分析
 - (4) 宮代町における観光の現状と課題
- 3 観光振興の将来像と目標
 - (1) 将来像の考え方
 - (2) 目標の考え方
- 4 宮代町の観光振興に向けて 「必要なこと」
 - (1) 観光推進の主体及び体制
 - ①観光推進体制の整備
 - ②市民・企業・行政の連携
 - (2) 観光振興に向けた方針と施策
 - 基本方針1 着地型観光の推進
 - 基本方針2 物品販売の強化（メンドインみやしろ、宮代ブランドの開発など）
 - 基本方針3 観光推進に向けた体制整備と人材育成
 - 基本方針4 効果的な情報発信の仕組みの整備

参考資料

- 1 宮代町観光ビジョン策定検討会議委員名簿
- 2 観光協会に関するアンケート調査の結果

調査市町村数	82市町村（埼玉県内62市町村、埼玉県外20市町村）
調査期間	令和2年1月17日～令和2年1月31日
回答状況	68市町村（回収率82%）

1 観光推進の背景 -なぜ今、観光推進か？地域課題解決の手段としての観光推進-

宮代町は、都心から約一時間にありながら、自然が残り、子育てや生活環境は良好であると考えられるが、2015年の人口33,000人から2045年には25,000人まで落ち込むとの試算もあり、地域コミュニティ機能や活力の維持に向けた抜本的な取り組みが急務となっている。町内の事業者は総じて小規模で高齢化しており、町特産の“巨峰”も後継者不足による生産者減で、現状のままでは近い将来、消滅の危機に瀕している。

現在、多くの地方自治体がこうした“課題”に直面している。つまり、少子高齢化や人口減少による商工業者の減少、農業後継者の不足、社会参加の希薄化、売り上げの減少、活気の喪失、地域経済や地域文化の担い手の不足とその先にあるコミュニティ機能の崩壊のおそれである。

国においては、2003年に小泉総理大臣が「観光立国」を宣言し、以降、訪日外客誘致（インバウンド推進）を強力に推進してきた。人口減少による国内の市場規模の縮小や税収の減少を、訪日外国人の旅行消費で補おうとする意図によるものである。各自治体は、競って転入促進策を図ってきたが、国のインバウンド施策と連動し、移住者獲得の次の方策として「交流人口」の拡大による地域活性化を目指し、それぞれ体制の整備や取り組みを進めている。

宮代町はいわゆる“観光地”ではなく、宿泊施設ももたない。しかし、町の歴史のなかで計画され築き上げられてきた付加価値の高い施設が複数存在し、ことさらPRしているとは思われないのに、専門家や見学者、観光客が来訪する。都心から車や電車で約一時間という距離は、都心からの手頃な体験型日帰り旅行を可能にしている。例えば、「ホテル鑑賞会」には都心からの親子連れが多く参加し、イベントが紹介されると、直ちに参加希望者でいっぱいになるという。「トウブコフェスティバル」のような大型イベントには、近隣市町に加え都内や県内からの来訪者が大挙してやってくる。集客力のある「東武動物公園」と5,000人が学ぶ大学も立地する。田園風景や屋敷林を備える古民家、高さが整った町並み等、豊かな自然と地域文化も魅力的である。そして何より、“手弁当”でも自分達で地域を盛り上げようという地域住民の活発な活動が地域の魅力をさらに高めており、観光推進のための基礎的な条件が概ね揃っている。

2 宮代町における観光の取り組みおよび現状と課題

(1) 宮代町総合計画との関係

「第4次総合計画」

構想2「交流人口を増やす」に則り、地域特性を活かし、自然環境や既存施設を活用した日帰り観光やグリーンツーリズム事業を官民協働で図ってきた。また、観光情報紙の発行や動画配信による宮代町の魅力発信など、宮代町の観光事業の基礎を築き、第5次総合計画への足掛かりを造った。

- ・宮代型観光推進事業
- ・宮代の魅力推進事業
- ・市民の活動をつなぐインターネット放送局

「第5次総合計画」

構想I「宮代らしさを価値として高めていく」として、町民自身が町の良さを意識し、外に向かって伝えていき、「さすが宮代」「なるほど宮代」「やっぱり宮代」と思わせる取り組みを進めていく。また、「農」を伝える拠点施設である「新しい村」や、宮代町の玄関口である東武動物公園駅西口周辺を、より魅力的な空間へと変えていき、観光拠点として整備していく計画となっている。

- ・新しい村魅力アップ事業
- ・東武動物公園駅西口わくわくロード事業
- ・みやしろズームアッププロジェクト

(2) 宮代町の観光資源

①景観

- ・さいたま緑のトラスト保全第5号地「山崎山の雑木林」
- ・桜
- ・農業によって作られてきた水田や屋敷林、用水路など
- ・大落古利根川

②施設

- ・東武動物公園（動物園、遊園地。プール）
- ・日本工業大学（工業技術博物館）
- ・コミュニティセンター進修館
- ・宮代町立笠原小学校
- ・農業公園「新しい村」（農産物直売所、ほっつけ田、ハーブガーデン、市民農園）
- ・宮代町役場（県産材使用の木造建築）
- ・宮代町立図書館
- ・宮代町総合運動公園
- ・はらっパーク宮代
- ・西原自然の森
- ・宮代町立郷土資料館
- ・和戸キリスト教会（県最初キリスト教会）
- ・神社・仏閣

③特産品

- ・巨峰
- ・米
- ・梨
- ・みやしろ巨峰ワイン
- ・宮代そだち（日本酒）
- ・メイドインみやしろ推奨品

④イベント・講座

- ・桜市
- ・産業祭
- ・トウブコフェスティバル
- ・みやしろイルミネーション
- ・世界のスープ屋さん
- ・つながり作りイベント和e輪e
- ・グリーンツーリズム事業
- ・フルーツフェスタ（巨峰市）
- ・ホテルのタペ観賞会
- ・トラストまつり
- ・町民まつり
- ・みやしろおひな祭り
- ・竹アート
- ・宮代郷土かるた
- ・みやしろフォトローギンング

⑤宮代応援団

- ・外交官（国府田マリ子、片桐仁）
- ・宮代戦隊ハナレンジャー

（４）宮代町における観光の現状と課題

町内に「東武動物公園」が立地し、人口 33,000 人の町に、毎年約 120 万の観光客が訪れている。仮にその半数が鉄道利用者で「東武動物公園駅」で下車するとすれば、その数は年間 60 万人、単純計算すると、連日、約 1,650 人が西口ロータリーを通過し東武動物公園に向かっていることになる。バス利用者が含まれるにしても、毎日、相当数が、ほぼ皆同じ道を通って、東武動物公園に向かう。移動の途中で食事や買い物をしてもらうことができれば、町のまさに中心エリアが活気づき周辺の事業者も潤う、はずである。

「進修館」「笠原小学校」など建築の教科書といえるような公共建築物や、“農”施設「新しい村」、全国でも珍しい「木造庁舎」といった文化的価値の高い町の“顔”であり“核”と言える見どころが、鉄道駅と東武動物公園の間に隣接して立地している。実際、そのエリアでは、年間を通して大小さまざまな体験・交流イベントが開催されており、集客の点では成功と言えるが、収益や利益とも結びついていない。お金はどのように落ち、回転しているかといった、地域が稼ぐ力を強化する必要がある。

一方で、多様な資源に恵まれているものの、一部を除いては、資源そのものへのアクセスも全般に小規模である。大人数を一気に大型バスで誘致できるような物理的環境やコンテンツは難しい。

町民が中心となって良質な体験・交流イベントを数多く企画・運営していることは理想的であり、強みである。ただ、新しいメンバーの確保が難しく、比較的同じメンバーが複数に係わっており、事業ごとあるいは人と人の連携は弱い。ボランティアの手弁当で支えられるイベントは社会参加や生きがい創出など観光の文化・社会的側面では大きな価値があるが、組織としての経験の蓄積には繋がりにくく、人が変われば毎回ゼロからのスタートとなり、安定した継続は難しい。

事業によっては役場の協力を得ることができる。しかし、役場にもマンパワーの限界がある。“まちづくり”としては、地域住民主体で進められることが望ましいが、長期的展望で地域課題に対応していくには推進の“かなめ”となる機能が必要である。

【 SWOT分析 】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民の主体的活動が盛ん ・ 年間通してイベントが多種 ・ 大学があり 5000 人の若者がいる ・ 特徴のある学校がある ・ 自然豊か ・ 美しい景観（高層建物が無い、屋敷林） ・ コンパクト（情報共有に強い、意思決定が早い） ・ 主要観光資源へのアクセスが良い ・ 都心から電車で小一時間、3 駅を有する ・ 駅前魅力（東武動物公園駅西口、姫宮駅西口の街路樹） ・ 特徴ある施設（進修館、笠原小学校、木造庁舎他） ・ 集客力のある施設（東武動物公園） ・ 個人経営飲食店が多い ・ 行政と町民の距離が近い <p style="text-align: right;">強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網羅的・継続的な情報発信の不足 ・ 東武動物公園と宮代町が結びつかない ・ 何でもあって地域ブランドが絞れない（宮代と言えば「これ！」が無い） ・ イベントは多いが収入に結びつかない ・ 施設間の補完関係の不足（東武動物公園と新しい村など） ・ 駅から観光中心部にかけての動線が弱い（誘導、“宮代参道”） ・ 農の規模が小さく大勢に対応できない ・ 活動拠点と活動場所の調整・不足 ・ 利便性ゆえ都心通勤者が多い ・ 商業施設が少ない ・ 若者が町内を回遊しない ・ 小規模事業者が多い ・ 駐車スペースが不足 ・ 宿泊施設が無い <p style="text-align: right;">弱み</p>
<p style="text-align: center;">機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東武動物公園駅西口の整備 ・ 埼玉県物産観光協会との連携 ・ 町活性化（関係人口拡大）に向けた意識の高まり 	<p style="text-align: center;">脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 恵まれた環境ゆえの危機意識の不足 ・ 地域コミュニティの弱体化（無関心・地域愛の不足） ・ 農業後継者の不足 ・ 商工業者の減少 ・ イベントの担い手の不足 ・ イベント担い手のモチベーション維持 ・ 人口減少と高齢化 ・ 自治体間競争の激化

3 観光振興の将来像と目標

(1) 将来像の考え方

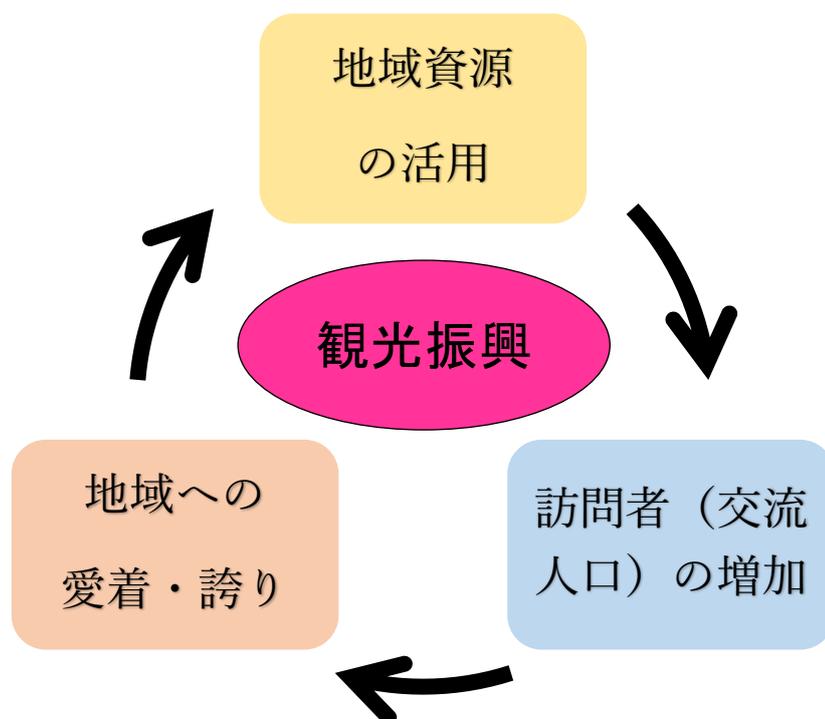
将来像は、次の2つの観点を考慮し、観光が、地域の持続的発展を支える主要産業に位置付けられ、多様な主体による観光地域づくりにより、町民が愛着と誇りの持てるまちとなるような将来像（キャッチフレーズ）とすることで、観光振興の方向性を共有でき、宮代町全体で推進が図れる体制がつけられるものとするのがよい。

①経済的な観点

観光関連産業の主要産業化 《地域が稼ぐ力の強化》

②社会的な観点

シビックプライドの向上 《地域への愛着・誇りの醸成》



(2) 目標の考え方

目標は、将来像の達成度を検証するために、目標年次や目標達成度合いを定量的な指標として設定し、進捗管理や評価をすることがよい。

4 宮代町の観光推進に向けて -必要なこと-

(1) 観光推進の主体および体制

① 観光推進体制の整備

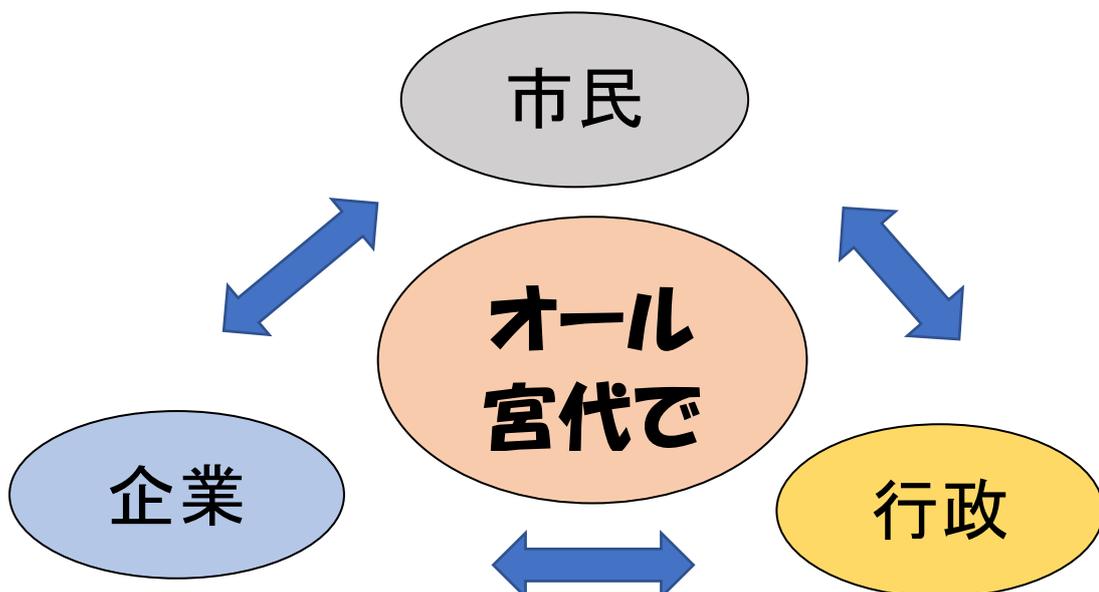
宮代町の観光推進にあたっては、町の観光振興に向けた短中長期の計画を立てて、内外の人材や資源を結びつけ、効果的な情報発信が必要である。現在は、係わる人もイベントも、それぞれがばらばらに独立して動いている。町として観光を推進していくためには、戦略をもって動かしていくことのできる専門の組織が必要である。具体的な形については今後の議論によるが、「観光協会」などがイメージされる。

また、推進体制の整備に時間を要する場合には、地域間競争が大きくなっていることから、正式な組織が動き出すまでの“つなぎ”で、町の資源や魅力を網羅的・継続的に発信できるような機能、例えば“(観光)案内所”があると良い。

- ・ 観光振興に向けた計画の策定
- ・ 観光推進に向けた専門的組織の創設、観光案内所の開設
- ・ 町民や町内団体の関わりの強化（人材の発掘・育成）

② 市民・企業・行政の連携 - “オール宮代”での取り組み-

観光推進にあたってはプラスの側面に目が行きがちであるが、プラスの陰でマイナス点も発生する。長期的に観光振興に取り組んでいくためには、まず、地域がもつ課題と目指す方向についてのしっかりした共有が必要である。様々な考え方もつ人たちが同じ方向を向くことができ、大きな課題に対応していくことができる。観光に係わりがある人だけでなく、観光とは縁がないと思われるような個人や事業者の声にも耳を傾けながら推進していくことが何より重要である。観光振興による成果は広く町民全ての果実である。



(2) 観光振興に向けた方針と施策

基本方針1 着地型観光の推進

宮代町は観光地ではなく、宿泊施設ももたないが、集客力のある東武動物公園、グリーンツーリズムの拠点施設である新しい村、進修館などの建造物、トウブコフェスティバルをはじめとする多くのイベントなど、地域資源は豊富にある。この地域資源を観光の視点で活用していく。

主要施策1 観光動線（“参道”）の演出

[東武動物公園駅]=[進修館][庁舎]=[笠原小学校]=[東武動物公園]=[新しい村]

“点”と“点”を結んで線にすることで、ひとつひとつでは弱くても、繋ぐことで魅力が増し集客力が高まる。

「進修館」や「笠原小学校」、「新しい村」、「木造庁舎」などの特徴ある建物は、町のまちづくりの歴史のなかで整備されてきた町の財産であり“顔”である。

「進修館」「笠原小学校」は、本来、観光目的の施設では無いが、建築学的に貴重なことから実際に多くの見学者や観光客が訪れる。

これらの施設が集約されている「東武動物公園駅」から新しい村までのエリアが、観光振興の“核”になる。そのため、駅からの動線をうまく演出することで、エリアの賑わい創出にもつながる。駅構内の地域情報発信基地も必要である。

事業展開例

- ①東武動物公園駅西口から新しい村まで統一感のある装飾の実施
(ポスター・チラシ、バナー、イルミネーションなど)
- ②飲食店、キッチンカーの誘致
- ③年間を通じて、それぞれの主体による様々なイベントの開催

主要施策2 「農」と「自然」を活かした観光コンテンツの整備

宮代町の一番の魅力として「自然」を挙げる町民が多い。

「新しい村」での農業体験やハーブの収穫体験、山崎山エリアでの自然体験プログラムなどが、都心からの子どもたちや親子連れを集客しており、グリーンツーリズムの拠点となる。

町内各地に残る田園風景や「屋敷林」をもつ古民家、桜並木、手入れされた個人の邸宅の庭など、「農」と「自然」を切り口にした体験型観光の可能性も高い。

事業展開例

- ①新しい村でのグリーンツーリズム事業の実施
- ②新しい村周辺及び散策コースの設定
- ③「農」と「自然」をテーマとしたイベントの開催

主要施策3 「東武動物公園」を核とした観光推進

「東武動物公園」という集客力のあるテーマパークが立地することは、町の観光の可能性を大いに広げている。

園内には遊園地やプール、食事処も設置されており、来訪者は園内で行動が完結し、町を回遊する様子が見られない。「東武動物公園」と「新しい村」は両者とも町の観光を牽引する重要資源であり、相互の連携を強化し両者にとっての「win win 関係」を構築する必要がある。

事業展開例

- ①「東武動物公園」来訪者の町内回遊の仕組みづくり
- ②「東武動物公園」とコラボしたイベントの開催

基本方針2 物品販売の強化（メンドインみやしろ、宮代ブランドの開発など）

観光の主力といえ、ば、“物品”と“食”がメインとなり、これらに関わる事業者の多さ、土産品による発信力など、観光消費を盛り上げるための可能性を秘めている。

“物品”と“食”のブランド力、知名度を磨き上げ、販売場所と手段を充実させる。

主要施策1 宮代ブランドの開発

宮代町の一番の“売り”は何か、「宮代と言えば、〇〇〇」の発掘が必要である。

そこにしか無いモノ、本モノ、他と差別化できる尖ったモノ、“勝負できるモノ”を磨いていく。

事業展開例

- ①メドインみやしろ推奨品の魅力アップ
- ②新商品の開発

主要施策2 “食” ・ “名物料理” の開発

“食”は観光要素として極めて重要であるが、残念ながらこれという決め手に欠ける。ストーリーとともに名物料理や土産品を発掘していく。

事業展開例

- ①グルメコンテストの開催

基本方針3 観光推進に向けた体制整備と人材育成

観光推進には、行政だけでなく民間の力が不可欠である。行政、観光事業者や地元事業者などの民間事業者、市民との連携による相乗効果で、観光消費を盛り上げていく仕組み

づくり、推進体制の整備を進めていくとともに人材の発掘・育成を行う。

主要施策1 人材確保・人材育成、広く町民を巻き込んでいける仕組みづくり

「トウブコフェスティバル」や「ホテルの夕べ鑑賞会」などのように町外から多くの観光客が参加するものから、地域住民内部向けまで、年間を通してイベントが多い。

これらを支える人々の横のつながりを強化し、より多くの町民参加が図れる仕組みづくりやイベントを支える人材育成を行う。

事業展開例

- ①人材育成のための講座・セミナーの開催
- ②行政・企業・町民のネットワークづくりの推進

主要施策2 自立した観光の確立

係わる人々が疲弊すること無く活動できるような“稼げる” “自立した”仕組みをつくっていくことが必要である。そのために、行政に過度に依存しない、また、行政に依存されない協働体制の組織づくりを行う。

事業展開例

- ①観光推進に向けた専門的組織の設立
- ②行政・企業・町民のネットワークづくりの推進

基本方針4 効果的な情報発信の仕組みの整備

まずは宮代町を知ってもらい、そして魅力を伝えるための発信力の強化が必要である。そのために、ターゲットを的確に捉えた必要な情報発信、PRをしていく。特に、東武動物公園来場者に向けた効果的なPRを検討する。

主要施策1 情報発信の仕組みの整備

多様なツールによる情報発信をしているが、発信力が弱い。

素敵な紙媒体が多いが、来てもらって初めて紙媒体が活きる。手に取ってもらえない紙媒体は活かないので、効果的な情報発信を行う。

また、インターネットを活用した情報発信は急務であり、継続的に更新し続けていく必要がある。

事業展開例

- ①観光プラットフォームの設置（観光専用ホームページの開設、観光管内所の開設）
- ②多様な媒体によるPRの推進（ホームページ、SNS、大型ビジョンなど）
- ③東武動物公園と連携した宮代観光の発信

参考資料 1

宮代町観光ビジョン策定検討会議委員名簿（敬称略）

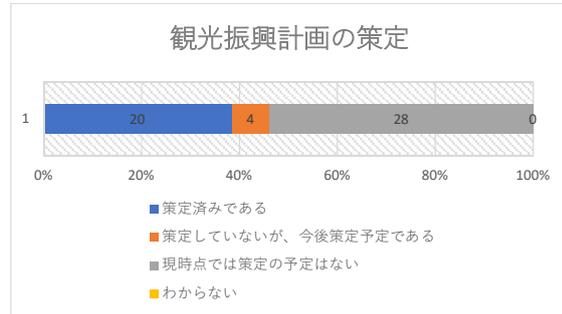
番号	所属	氏名	
		令和 2 年度	令和 3 年度
1	共栄大学	橋本 佳恵	
2	宮代町商工会	嶋田 知恵子	嶋田 知恵子
3	東武レジャー企画株式会社	中嶋 庸子	中嶋 庸子
4	株式会社新しい村	千葉 美香	千葉 美香
5	みやしろ市民ガイドクラブ	千葉 庄一	千葉 庄一
6	和 e 輪 e 実行委員会	浅倉 孝郎	須藤 晃応
7	宮代マルシェ実行委員会	佐々木 敦子	佐々木 敦子
8	埼玉県物産観光協会	岩岸 悟	岩岸 悟
9	公募	小矢島 恒雄	小矢島 恒雄
10	公募	山本 豊	山本 豊
11	公募	小川 まなみ	小川 まなみ

観光協会に関するアンケート調査の結果

様式1 アンケート回答数 53 件

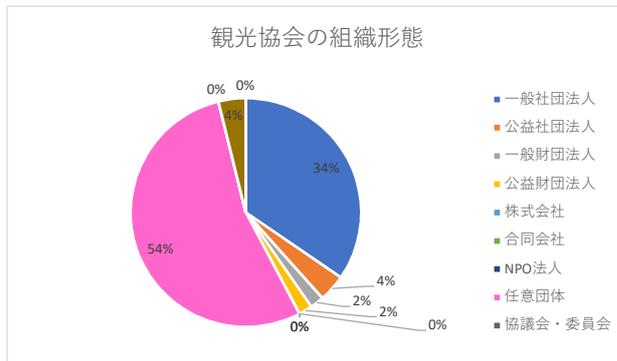
問1

1 策定済みである	20
2 策定していないが、今後策定予定である	4
3 現時点では策定の予定はない	28
4 わからない	0
合計	52
無回答	1



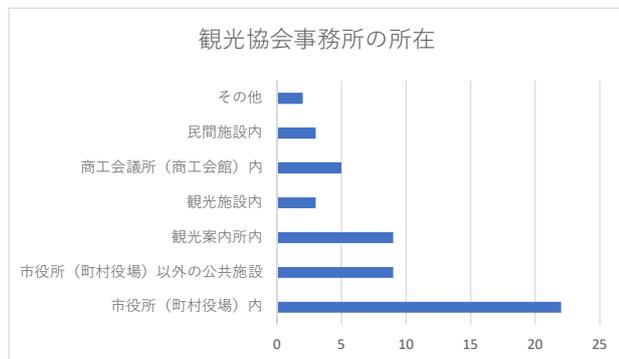
問5

1 一般社団法人	18
2 公益社団法人	2
3 一般財団法人	1
4 公益財団法人	1
5 株式会社	0
6 合同会社	0
7 NPO法人	0
8 任意団体	28
9 協議会・委員会	0
10 その他	2
11 わからない	0
8⇒1	1
合計	53



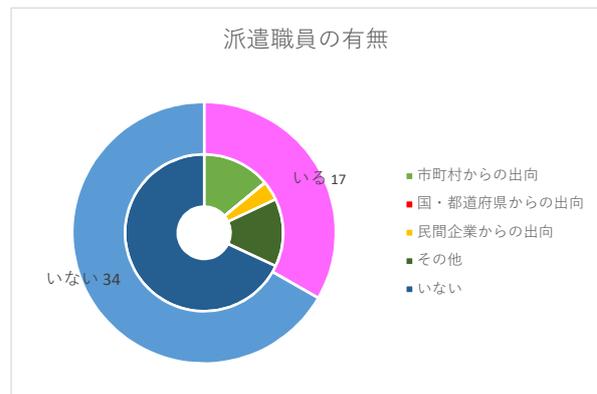
問6

1 市役所（町村役場）内	22
2 市役所（町村役場）以外の公共施設	9
3 観光案内所内	9
4 観光施設内	3
5 商工会議所（商工会館）内	5
6 民間施設内	3
7 その他	2
合計	53



問11

1 いる	17	いる	17
1-1 市町村からの出向	7	いない	34
1-2 国・都道府県からの出向	0	合計	51
1-3 民間企業からの出向	2	複数回答	2
1-4 その他	7	無回答	4
2 いない	34		

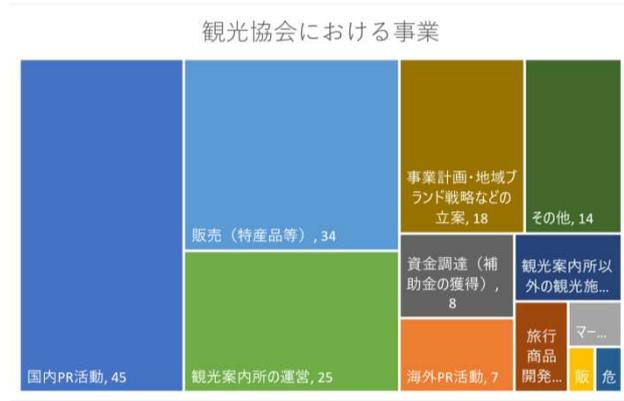


問12

1 ある	1
ア 第1種旅行業	0
イ 第2種旅行業	0
ウ 第3種旅行業	0
エ 地域限定旅行業	2
オ 旅行業者代理業	0
2 ない	50
合計	53

問13 【複数回答】

1 国内PR活動	45
2 海外PR活動	7
3 マーケティング(市場調査・ブランド戦略)	2
4 販売 (旅行商品)	1
5 販売 (特産品等)	34
6 観光案内所の運営	25
7 観光案内所以外の観光施設の運営	6
8 旅行商品開発	4
9 資金調達 (補助金の獲得)	8
10 事業計画・地域ブランド戦略などの立案	18
11 危機管理 (観光視点)	1
12 その他	14

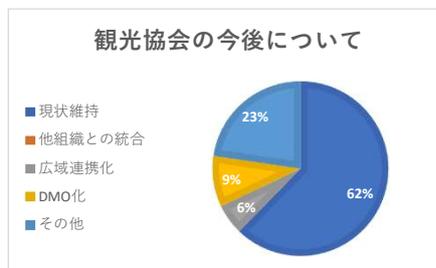


問16

1 民間公募	5
2 民間企業からのスカウト (ヘッドハンティング)	2
3 市町村からのスカウト (ヘッドハンティング)	11
4 都道府県からのスカウト (ヘッドハンティング)	0
5 その他	31
合計	49
無回答	4

問17

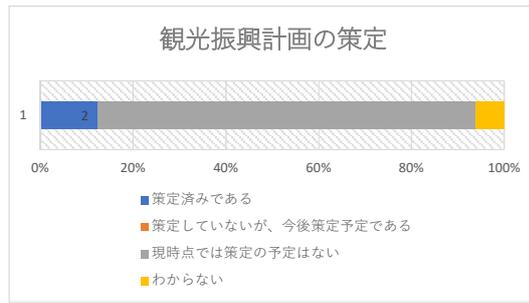
1 現状維持	33
2 他組織との統合	0
3 広域連携化	3
4 DMO化	5
5 その他	12
合計	53



様式2 アンケート回答数 15件

問1

1 策定済みである	2
2 策定していないが、今後策定予定である	0
3 現時点では策定の予定はない	13
4 わからない	1
合計	16



問2

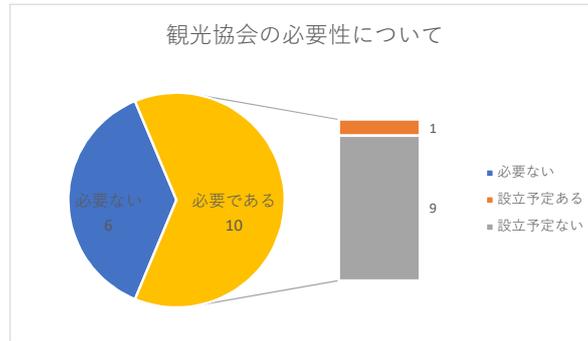
2 必要ない	6
1 必要である	10
合計	16

問3

※問2で「1必要である」と答えた方

必要ない	6
1 設立予定ある	1
2 設立予定ない	9

⇒一般社団法人が有力ではないかと思うが、現在検討中



問5

※問2で「2必要ない」と答えた方

1 観光事業を市町村が直営で実施しているから	2
2 商工会議所（商工会）が観光事業を実施しているから	0
3 民間企業が観光事業を実施しているから	1
4 「1~3」以外の組織が観光事業を実施しているから	1
5 市町村としての優先順位が低いから	2
6 その他	0

問6

※問3で「2設立予定ない」と答えた方

1 運営主体となる団体がいないから	6
2 設立予算がないから	0
3 専門的な人材がないから	2
4 ノウハウがないから	0
5 市町村としての優先順位が低いから	1
6 その他	0